

公益財団法人 海外子女教育振興財団  
AG5 事務局 宛

## 2020 年度 AG5 報告書

1. 報告者	
(1) 学校名	パリ日本人学校
(2) 氏名	水野 団
2. 実施体制	
研究主任: 水野 団	
研究推進委員: (校長)小野江隆・(教頭)酒井正彦 (小学部)袴塚正之・(小学部)戸塚佑樹・(中学部)後藤悠	
研究員: (小学部)小松澤望・夫婦岩由紀・手塚英海・原田祐子・貴島涼平 (中学部)柿木彩良・鈴木勲・志賀一友	
3. テーマ	
日本人学校における高度グローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発	
4. 目的と概要	
日本人学校の教育の質を高めることを目的に、高度グローバル人材の基礎的資質形成に資する総合学習について、探究学習を核にした単元開発を実施し、汎用性の高いプログラムの開発に繋げる。	
研究主題を「世界で活躍するグローバル人材の育成」と設定し、研究の大きな柱を、次の4つとする。	
①本校におけるグローバル人材育成に必要な資質・能力とは何か。	
②探究単元の開発推進のための対話的で深い学びの実現と学級づくり。	
③単元づくり(探究単元)のためのカリキュラムマネジメント。	
④汎用性のある小中一貫探究単元の開発(IBの理念を参考)。	
5. 今年度実施した取組み(※研究会や出張等は日程も含め記載してください)	
4月・5月・6月中旬まではコロナ禍による学校閉鎖。それ以降は分散登校などが続いた。通常での学習は困難であるため、4月当初よりオンラインにて学習配信した。	
「汎用性のある小中一貫探究単元の開発」の検証が可能となると考え「科学を知ろう～今と科学とわたしと未来～」を小中一貫の共通のテーマにし、NICT・JAXA・NEDO・JST・JAEAの5機構によるオンライン講座を開催し、探究学習への基盤とした。オンライン講座は、学校の意図した動機づけとなり、日本・フランス・地球・宇宙など、科学を通して自分につなげていく内容を計画。	
【オンライン講座に参加】	
5月6日(水)10:00～11:15 NICT 時刻が分かると位置がわかる?～携帯電話やカーナビで位置が分かる仕組み 中1～中3	
5月7日(木)10:00～11:30 JAXA 太陽系探査のいま 小4～小6	
5月11日(月)10:00～11:15 NEDO 世界の再生可能エネルギー状況(特に太陽光 発電) 小5～中3	

5月14日(木)10:00~11:30

JST よりよい未来をつくるために ~持続可能な 開発目標(SDGs)と科学技術~ 中1~中3

5月15日(金)

NICT 宇宙から見た太陽と、宇宙天気予報 小4~小6

5月19日(火)10:00~11:15

NICT 宇宙クイズで、不思議に挑戦! 小2~小4

5月20日(水)10:00~11:45

JAXA 地球温暖化を知ろう 小5~中3

5月25日(月)10:00~11:30

JAEA 放射線と地球の旅 小5~中3

### 【学びの地図作成】

6月~7月に、オンライン講座を聞いて、メモしたことをもとに「学びの地図」を作成。

- ・はじめて知ったこと、興味をもったこと
- ・疑問に思ったことや質問したいこと、調べてみたいこと
- ・今、すぐに自分ができること、考えるべきこと
- ・こんな未来にしたい、なってほしい、こんな生き方をしたい

「学びの地図」を作成することで、自己の理解を組み立てていく。

- ・課題を見つける力            ・課題解決していく力
- ・疑問を見つける力            ・学び方やものの考え方を身につけていく力

### 【新聞作り・新聞交流会】

2学期にはコロナ禍による学校閉鎖や2度目のロックダウンによる時間割の日程変更などがあったが、その中で新聞作りや新聞交流を行うことができた。多角的な見方やまとめる力、伝えるための方法を考える力、情報を収集し、選択する力 (ICT の活用)、自身が課題設定し、事実や真実を見極める目、自身を見つめ直す機会、世の中に考えを伝えたり提言したりする力、探究していく力などが得られた。また、異なる視点や同意見の中から、新たな取り組みの発見へとつなげていき、具体的に何ができるのか、何がどのように変わる、自分の行動にどう働きかける、本当にそれでいいのかなど振り返り、考えていくための力・見直す力をつけ、世の中との関わりとの関係性を導き出していった。

### 【パリ日提言フォーラム開催】

当初、11月に予定していたが、ロックダウンにより、保護者が学校に来て参加出来ないことや研究機構の方々を招待できないことにより、2月開催に変更した。

しかし、2月も様々な制限の中で保護者や研究機構の方々が来校することは叶わず、Zoomを使用して参加していただく中での開催となった。

各ブロック (低・中・高・中学生) の概念やキーワードをもとに、様々な捉え方や考え方を通して、周囲との関係性や自己の生き方を考えたり、成長を実感し、課題や目標を発見したりできる場とする。

2月2日(火)パリ日提言フォーラムミニ部会(10:40~12:15) 小1~3年・保護者

2月3日(水)パリ日提言フォーラムミニ部会(10:40~12:15) 小4~6年・保護者

2月4日(木)パリ日提言フォーラムミニ部会(10:40~12:15)中1~中3年・保護者

2月6日(土)パリ日提言フォーラム(8:55~12:15)全学年・保護者・各研究機構の皆様

### 【振り返り】

提言フォーラムを振り返り、再度自身の考え方や他者の考え方について見つめ直し、これからの生活に生かしていく事柄を考えていく。

### 6. 今年度の成果・効果 (※詳細に記載し、成果物があれば添付してください)

- ・小学部1、2年生の活動では、普段の何気ない生活の中にも、改めてワークシートやカードに書くことで、新たな気づきや発見があった。3年生以上で扱っている「学びの地図」のもととなり役立った。また、言語化を通して、誰かに伝える、伝わるということ意識することができた。共感や励ましの言葉をかけ合ったり、書かれた内容について質問したり、書かれていない内容を更に出し合ったりしていた。
- ・「オンライン講座」において専門家の講話をきっかけに、意欲的に探究活動のテーマを考えさせ、児童の知的な興味・関心を高め、探究学習に向けての意欲を高揚させることができた。  
また、「今と科学とわたしと未来」という学校全体の大きなテーマとして取り組み、ブロックだけではなく多くの学年と交流することができた。さらに小学部と中学部が交流を図ることができたことにも意義があった。
- ・「学びの地図」を作成したことによって、オンライン講座で学んだことを整理することができた。  
そして、自分が興味をもったことを再確認することができた。  
また、「学びの地図」で思考を可視化しそれをもとに、思考を分類したり、関連させたりする活動を通し、課題発見、解決、再考などの探究のスパイラルを作り出すことができた。
- ・新聞作りでは、自分が興味をもったことを新聞に表現し、交流することで達成感が得られたとともに、より興味関心が高まり、その後の探究活動に繋げることもできた。
- ・友達の新新聞を読んで、関心を深めたり、新たなことを知りたいという意識をもてたりした。
- ・新聞交流によって、新しい知識の獲得や新たな課題を生み出すきっかけを作ることができた。また、表現の仕方の多様性に気づくこともできた。
- ・3年生以上全員が新聞づくりや提言書の作成をする際、プレゼンテーションソフトを用いた資料の作成方法を学ぶことができた。そして、作成するにあたり、本当に必要な情報の取捨選択をすることができた。  
また、提言づくりを通して、探究した内容から自分なりに問題点を見つけるとともに、その解決策を考えることができた。
- ・児童生徒は学び方について知り、その上で課題をよりよく解決しながら、自己の生き方を考えていくための資質や能力を高めていくことができた。また、今後のさらなる探究活動の見通しをもつことができた。
- ・提言に向けての活動では、児童生徒にとって未知の領域である概念学習を取り入れることができた。それによって児童生徒は学び方や学ぶ理由などの学習に対する新たな見方や考え方をもつことができた。
- ・「提言フォーラム」を通して、根拠を明確にしながら自分の考えを他人に伝えることができた。さらに、質疑応答を通して、新たな考え方の発見やそれぞれが批評的な感覚を得ながら活動することができた。

- ・教師が探究のプロセスを意識しながら取り組むことができた。全ての学年で、探究の学習がスムーズに進むよう、授業改善の研究に継続して取り組んだり、具体的に「わけをそえて話すことができる児童生徒」を育む授業づくりに取り組んだりすることができた。

## 7. まとめ

コロナ禍において、計画通りにいかなかった反面、共通のテーマをもち、「意図した動機付け」「学びの地図作成」「新聞作成」「新聞交流」「提言に向けての交流」「パリ日提言フォーラム」という流れを構築できた。今後、テーマが変わっても同様の活動が可能であり汎用性がもてたと考える。

今年度は、通常の授業、講演会や保護者の参加のみならず、異学年との話し合い活動などもオンラインを駆使した。次年度以降、正常化された際には、今年度と同様以上の活動を行えるように、教師一人一人の資質を高めていきたい。

## 8. 次年度の計画

- ・今年度の単元構想を、テーマを変えた場合や各教科と総合的な学習の時間（探究）とを横断的に扱う関わり方の有用性の視点で再検証することで、いかなる場所、いかなる状況下においても探究学習を深める指導のあり方（汎用性のある指導のあり方）を研究していく。
- ・コロナ禍の状況にもよるが、活動の仕方の工夫をしていくとともに、フィールドワークでの体験的な活動や情報の収集を積極的に取り入れていく。
- ・パリ日から日本、ヨーロッパ、世界へと、提言した内容をより具体的に外部に横展開していく方策を見いだしていく。
- ・共通テーマを、開催地「東京・パリ」を見据えて、フランスに住む児童生徒の視点で「オリンピック・パラリンピック」について考察し課題設定していく。

## 9. 所感

日本人学校特有ではあるが、毎年教師の異動や児童生徒の転出入が1／3近くある。特に児童生徒は、学期途中での転出入も多い。途中転入の児童生徒への概念学習についてのきめ細やかな説明とともに、教師側の概念学習に関わる大きな意識改革が必要である。

※記入欄は適宜拡張してください。